

ICT活用工事（河川浚渫）実施要領

（趣 旨）

第1条 今後、生産年齢人口の減少が予想される中、建設現場における生産性向上は避けられない課題となっている。企業の経営環境を改善し、建設現場に携わる人の賃金水準の向上を図るとともに、安全性の確保を推進していく必要がある。

そこで、埼玉県県土整備部発注工事において、情報通信技術（ICT）の全面的な活用の推進を実施するものである。

この要領は、埼玉県県土整備部が発注する建設工事において、「河川浚渫におけるICTの全面的な活用」（以下、「ICT活用工事（河川浚渫）」という。）を実施するために必要な事項を定めたものである。

（対象とする工事）

第2条 ICT活用工事（河川浚渫）は、次の工種を含むすべての発注工事を対象とする。

- ・浚渫船運転工

（ICT活用工事（河川浚渫））

第3条 ICT活用工事（河川浚渫）とは、以下に示す施工プロセスの全ての段階においてICTを活用する工事とする。

【施工プロセスの各段階】

① 3次元起工測量

起工測量において、3次元測量データを取得するため、下記（１）～（２）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。なお、直近の測量成果等での3次元納品データが活用できる場合等においては、管理断面及び変化点の計測による測量が選択できるものとし、ICT活用とする。

（１）音響測深機器を用いた起工測量

（２）その他の3次元計測技術を用いた起工測量（※）

（※）従来の管理断面においてTSを用いて測定し、計測点同士をTINで結合する方法で断面間を3次元的に補完することを含む。

② 3次元設計データ作成

発注図書や①で計測した測量データを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。

③ ICT建設機械による施工

②で作成した３次元設計データを用い、下記（１）に示すＩＣＴ建設機械を作業に応じて選択して施工を実施する。

（１）３次元ＭＣまたは３次元ＭＧ建設機械

※ＭＣ：「マシンコントロール」の略称、ＭＧ：「マシンガイダンス」の略称

④３次元出来形管理等の施工管理

③による工事の施工管理において、下記（１）～（３）から選択（複数以上可）して出来形管理を実施する。

（１）音響測深機器を用いた出来形管理

（２）施工履歴データを用いた出来形管理

（３）その他の３次元計測技術を用いた出来形管理

⑤３次元データの納品

④による３次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。

（発注方式）

第４条 ＩＣＴ活用工事（河川浚渫）の発注は、受注者希望型によるものとする。

（受注者希望型）

第５条 受注者希望型は、受注者からの希望によりＩＣＴ活用工事（河川浚渫）を実施するものとする。

２ 発注に当たっての積算は、ＩＣＴによらない従来の積算基準によるものとする。

３ 発注者は、発注に際して入札公告にＩＣＴ活用工事（河川浚渫）の対象であることを明示するとともに、特記仕様書を添付し発注手続きを行うものとする。

４ 受注者は、ＩＣＴ活用工事（河川浚渫）の実施を希望する場合、契約図書に付された特記仕様書に基づき発注者に協議するものとする。

５ 発注者が協議内容に同意し施工を指示することにより、受注者は、ＩＣＴ活用工事（河川浚渫）を実施することができるものとする。

６ 発注者は、ＩＣＴ活用工事（河川浚渫）の実施を指示した場合、積算要領※のＩＣＴに対応した積算基準に基づき設計変更するものとする。

※国土交通省 HP「要領関係等（ICTの全面的な活用）」に記載の最新の積算要領を準用する。

【https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/sosei_constplan_tk_000051.html】

(基 準)

第6条 ICT活用工事（河川浚渫）の実施にあたっては、国土交通省が定めた要領及び基準を準用するものとする。準用する要領及び基準については、別途定める。

附 則

この要領は、令和6年 2月 1日から施行する。